

学校生活に慣れてくる時期、教師と子ども、子ども同士の人間関係をさらに深めていきたいものです。そのために、子どもをよく見て、思いをよく聴き、教師が自分のことばで語りかけたり、互いを認め合う関係づくりを進めたりしましょう。学級開き後の1ヶ月間の生活を振り返って必要なルールや約束を作ったり、係活動による自治的な取組を支援したりしていくことにも気を配りたいですね。



<小学校>

学級づくりをキャリア教育の視点からみると

お互いに認め合う関係づくり  
～構成的グループエンカウンター～

新年度がスタートし、慌ただしい4月が過ぎて5月は学校生活にゆとりを感じられるようになります。そこで、お互いをもっと知って、子どもたちの間に認め合う関係を築いていくことができるように構成的グループエンカウンターを取り入れてみましょう。

取り組み方のワンポイント

○学年にあわせて取り組んでみましょう。

低学年…ゲーム性が強く、バラエティーに富んだものを

中学年…自分や友だちについてじっくりと考えることができるものを

高学年…異性と上手に関わるものを

○エクササイズをしたら、気づきや感情を共有するシェアリングの時間を取りましょう。

エンカウンターを通して人間関係づくりを進めましょう。



遊びの中で育てる仲間意識

小学校低学年の子どもは、群れて遊ぶ体験を積み重ねていくことで、少しずつ仲間意識を身に付けていきます。

この仲間意識の形成は、キャリア教育における【人間関係形成・社会形成能力】にあたります。

子どもは、遊ぶ環境さえ整えば、友だち同士で新しい遊びを次々と生み出していきます。

- 思い切り動ける場所
- 自由に使える遊具（縄跳び、ボール）
- 自由に使える素材（木片、古布、ダンボール）

先生から子どもに新しい遊びを紹介したり、一緒に遊んだりするのもよいかもしれません。

また、子ども同士をつなぐ声をかけていくことで、遊びの輪が広がっていくでしょう。



<中学校>

学級づくりをキャリア教育の視点からみると

「あったかいんだから♪…学級づくり」

～暴言・暴力のない安心できる学級に～

○教師自身の言葉は穏やかですか？

→生徒は教師の姿を写す鏡です。もし同じ言葉を生徒が使ったとしても、気にならないかを考えて話すようにしましょう。

○生徒の言葉の乱れを見過ごしていませんか？

→気になる言動があっても「そのくらいはいいか」と何も言わなければ、次第にエスカレートしていきます。教師として「それはだめだよ」ときちんと伝えましょう。

○生徒が「わかる、できる」授業になっていますか？

→学校生活のほとんどは授業です。授業が充実していないと生徒の心は荒れてきます。まずは授業の終末で振り返りの時間をきちんととって、見とどけをし、生徒が「わかった、できた」と満足感を感じられるようにしましょう。



与えられた仕事をやり抜く喜びを

新年度の生徒会。日常活動のある委員会とそうでない委員会があり、また、一生懸命活動する生徒とそうでない生徒がいるかもしれません。

そんなとき、こんなことを取り入れてみてはどうでしょうか。

- 生徒会の翌日には連絡会を位置付ける⇒特に連絡がなくても、クラスの状況を見て必ず何か伝えるようにする。
- 委員会ごとにポスターや掲示板をつくる⇒ふだんの活動で活躍の場が少ない生徒に依頼して、何かメッセージを伝えるようにする。

生徒会に限らず、与えられた仕事をやり抜くことは、キャリア教育で大事にされている「基礎的・汎用的能力」の中の【自己理解・自己管理能力】を育むことにつながります。

ちょっとしたずくを出して、キャリア発達を促しましょう。

